

世田谷区「在宅療養・ACPガイドブック」を通じた 多職種へのACP普及啓発活動

株式会社メディヴァ コンサルティング事業部 神野 真実, 村上 典由, 山田翔太

桜新町アーバンクリニック 五味 一英, 尾山 直子

COI 開示

演題発表内容に関連し、発表者らに開示すべき

COI関係にある企業などはありません。

はじめに

- 世田谷区の在宅医療・介護連携推進事業にて在宅療養の知識と、ACPについて紹介するガイドブックを制作
- 約2年にわたり区民及び専門職に普及啓発活動を実施
- 昨年度は「多職種によるACP実践と連携の可能性」を模索すべく専門職向け講習会を検討、実施



講習会（構成）

- 第一部・医師によるACPの基礎解説
 - 医師：五味 一英（桜新町アーバンクリニック）
- 第二部・専門職の実践報告
 - 理学療法士：鹿島 雄志（株式会社りはっぴい）
 - 訪問看護師：尾山 直子（桜新町ナースケア・ステーション）
 - ケアマネジャー：横溝 美和（NPO 向日葵）
- 第三部・出演者全員の座談会
 - 進行：五味 一英（桜新町アーバンクリニック）
神野真実（株式会社メディヴァ）



多職種からの発表内容（ACP実践のための視点やポイント）

- 理学療法士

- 身体を触ることを通じ、本音が言いやすい関係性で「本人が納得、自己決定」するためのACPを実践
- 心身機能の予後予測を踏まえた可能性を提示し、タイミングを見計らった情報提供と支援者同士の共有

- 訪問看護師

- ケアする側にわかりやすい／やりやすいACPの形式に当てはまるのではなく、語り、昔の写真、絵など「バラエティに富んだ表現」を受け止め、読み解く力がケアする者には必要
- 「ふとこぼれ落ちた本音」は必ず拾い、つなげていく
- コミュニケーションの中で疑問に思うこと／ひっかかることの答えは、その人の人生の歴史の中にある

- ケアマネジャー

- 日常の断片的なエピソードを拾い集め、揺れる思いや言葉にならない思いをくみ取り寄り添っていく
- 病状や生活環境だけに目を向けず（サービスありき）、その人自身に興味を持ち接する
- 本人・家族、多職種との橋渡し役として迅速に返していく

座談会内容(多職種でのACP実践のための要点)

- **職種や事業所を超えて、ACPを繋いでいく「報告しやすい環境づくり」**
 - サービス担当者の顔の見える関係を築く
 - 自身がご本人の人となり、生活史、価値観、死生観（ACP）に興味をもっていることをアピールする
- **本人の表現を紐解く、サインを受け取る「ケアする者の感性や想像力」**
 - ちょっとしたおしゃべり、昔の写真、絵、メモ書きから、思いを掘り出していく
- **かけたいところに時間をかけるための「業務効率化」**
 - MCSや動画等での情報共有や、状況に応じ、オンラインでの担当者会議を開催するなど、事業者の業務効率が上がる仕組みやICT化

参加者アンケート（事業所種別）

- 当日は76名の参加

- 参加者アンケート

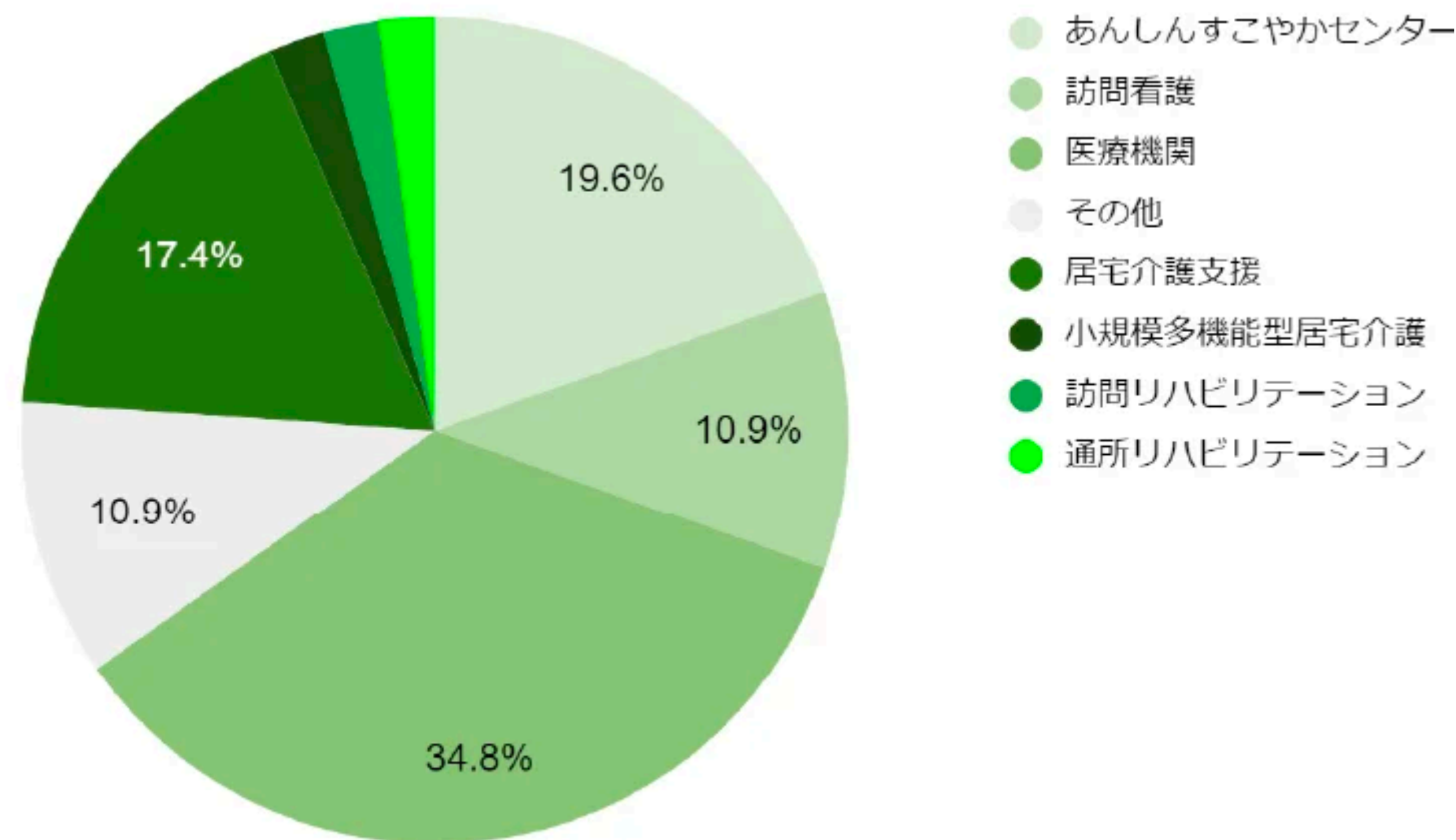
調査方法：オンラインアンケート

期間：令和4年11月16日～11月25日

有効回答：63

- 参加者属性

- 医療機関 34.8%
- 地域包括支援センター 19.6%
- 居宅介護支援事業所 17.4%



参加者アンケート（講習会の評価）

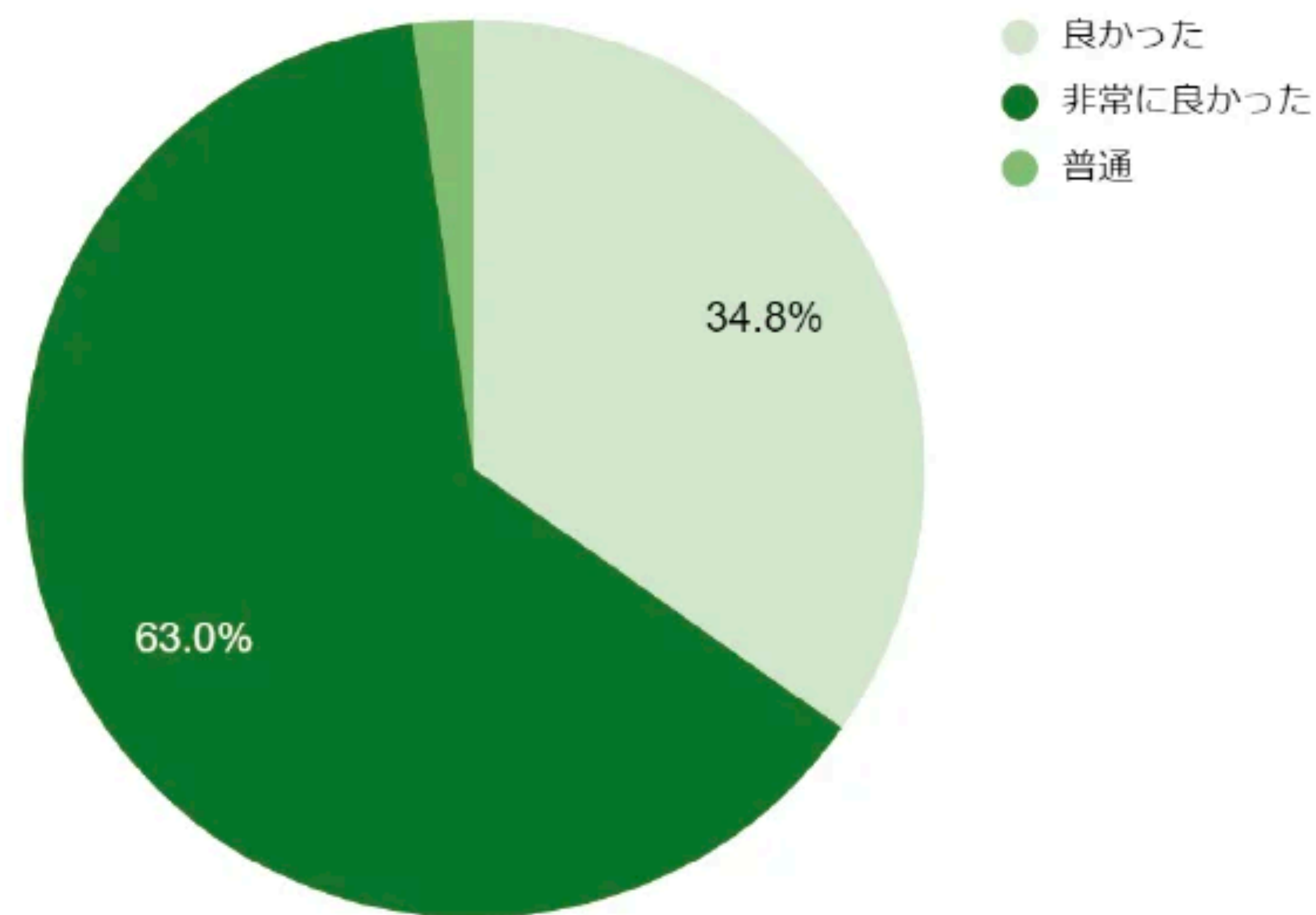
- 講習会に対する評価

非常に良かった63.0%、良かった34.8%

- 自由回答

ACPは、大袈裟なことではなく、普段のケアの中で大事にしていることだと改めて見直す良い機会でした。

病院でのACPの実践は難しいと思い、今出来ることはパンフレットの配布など種まきのことであるが、在宅では確実に進歩していると感じた。家族間や、職種間、チーム間、そして病院と地域など全ては、コミュニケーションが大事であると感じていたので、研修はとても共感でき、今やっていることが数年後には何か反応が得られる気がしてきた。



冊子と講習会のご紹介



LIFE これからのこと

世田谷区在宅医療・ACPガイドブック



在宅療養・ACPガイドブック講習会

本人の状態や専門職の立場に応じた人生会議のあり方（世田谷区在宅医療・介護連携推進事業）

